

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-87	高等学校	地理歴史	地図	
発行者の番号・略号	教科書の記号・番号	教科書名		
130 二宮	地図 311	詳解現代地図		

1. 編修の趣旨及び留意点

本書は高等学校地理歴史科地図として、地理歴史科（特に地理 A, 地理 B）の授業の際に、地理的・歴史的事象を空間的にとらえさせたり、日本と世界の現状や課題を把握させたりすることで、地理的な見方・考え方はもちろん、地図を活用するという技能を身につけることができるように編修した。本書で得られた知識・考え方・技能は地理歴史科だけでなく、他科目・他教科や高校生活全般、ひいては将来の進路においても活用してもらえるようにし、生徒が多面的かつ地球規模的な視野に立って考えたり、行動したりする態度を養うことのできる地図帳になるよう編修した。

1) 世界情勢を強く反映した世界の一般図

- 世界の一般図では、「東アジア」や「ヨーロッパ」など大州区分ごとの地図と、「朝鮮半島」や「アメリカ合衆国中・東部」など地域の拡大図も併せて掲載し世界全体をカバーするようにした。
- 北極を中心として広く地域をとらえる「ユーラシア・アメリカ」（P. 20～21）、日本との結びつきが強くなった「東南・南アジア」（P. 34～35）など大州区分をこえる範囲の地図を掲載。
- 中国では経済発展が著しい地域として「ペキン周辺」、「長江下流域」、「珠江下流域」の拡大図（P. 26～27）、民族紛争が絶えない「カフカス・クルディスタン」（P. 46）、ウクライナ情勢で緊迫する「ヨーロッパ東部」（P. 70～71）など、特に近年の政治的経済的に注目されている地域を取り上げて、国際社会に対しての関心を高める構成にした。

2) 豊富なテーマを題材とした系統地理学視点の世界主題図

多くの地理的事象に触れてもらうため、世界主題図や自然のページでは地理 B の系統地理学的考察をほぼ網羅するテーマ数を扱うことにした。それにより自然環境、産業、人口などのテーマをまんべんなく掲載し、さまざまな地理的条件によって今日の社会が成立していることが理解できるようにした。

3) 詳細でトピカルな話題が多い地誌学的視点の地域主題図

大州別や地域別の一般図と並ぶようにその地域の主題図を配置した。その地域固有の課題や地球的課題となるような主題図も取り入れ、「地図で読み解く地域」というコーナーを設けた。東南アジアやアフリカなどでは、貿易や経済協力の面における日本との関係もわかるようなものとした。日本の主題図にも重点を置き、国土の状況を理解させつつ災害や産業を考えさせる構成にした。

2. 編修の基本方針

1) 美しい配色と詳細な地形描画により見やすくわかりやすい地図帳とする。

●一般図の地形表現から主題図にいたる地図帳全般を通じ、地名等の文字を読み取りやすくするため、明るい色彩にすることに努めた。一般図は全体を通して、標高による段彩表現を行い、平野の緑色系から山地・山脈の茶色系へと色を変化させることで、標高の高いところと低いところを明瞭にし、各地域の地形を把握させることを容易にした。

●地図学習において重要である国名や首都名を大きくし、ほかの地名との差別化を図った。また、国名や山脈名などには文字に白の縁取りを行い、色覚特性のある生徒に対しても配慮した。

●また、地形表現が緻密であるため、海岸線や地形の様子をはっきり読みとることができるようになっており、「フィヨルド」・「鳥趾状三角州」・「リアス海岸」・「エスチュアリー」など、地図で見てわかる地形名称を一般図上に掲載した。

2) 最新の情報による現代社会の情勢を反映した地図帳とする。

●主題図を作成するために使用した統計資料や地図などはなるべく最新のものを使用することを心がけた。国内外の地図をはじめ国際連合やその他の国際機関、各国の資料など信憑性の高いデータによって作成し、資料性が高く充実した内容となっている。

●写真についても変化の激しい都市の景観写真を中心に、2010年以降の比較的新しい写真を掲載することにより、その地域の「今」を伝えられるものとした。

3) 我が国、国土への愛着や関心がわく地図帳とする。

●我が国の国土を一望できる一般図「日本の位置」を掲載し、日本に関する主題図では世界の地域主題図と同程度となる5ページを割り当てて充実を図った。

●統計資料では、日本の自然に関する統計を世界とほぼ同量にし、都道府県に関する統計も充実させて、地図だけでなく数値としても我が国の現状をとらえやすくした。

4) 諸外国の現状を学び、他国や異文化を理解ができる地図帳とする。

●世界の一般図の地名は、今日の外国語教育や国際理解教育の普及をふまえ、現地音に近い表記となるよう心がけた。

●大州図のうち、「アフリカ」や「北アメリカ」の図には「同緯度同縮尺の日本」を、「南アメリカ」の図には「地球の正反対側においた同縮尺の日本」を描画した。これにより、日本との位置関係や日本との面積の比較がしやすくなり、諸外国への理解や関心が持てるようにした。

5) 地理歴史科の地図として日本史や世界史への活用や、公民科にも活用できる地図帳とする。

●世界の一般図ならびに日本の一般図には、世界遺産、史跡・遺跡、名所・名勝などを記号や文字囲み、また色を用いて示すことによって、一般の地名と一見して区別できるようにした。

●主題図においても「1914年当時の世界」(P.2)、「ヨーロッパの国境の変遷」(P.57)、「アメリカ合衆国の領土の拡大」(P.82)などの歴史分野の内容や、食料問題や環境問題など公民分野でも扱っている内容を取り入れて、地理歴史科だけでなく公民科にも活用することができる地図帳とした。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界の国々 交通・通信	冒頭のページにあたり，図の多くを日本中心のものとするので，世界の中で日本の位置を把握させたり，日本と他国の対比ができたりするようにした（第五号）。	P.2～3 図 1, 3 P.6 図 1, 3 P.7 図 1, 2, 4, 5
	冒頭のページに世界の独立国全てが見られる図を取り上げ，一覧性を高めて知識の定着と正しい空間認識が身につくようにした（第一号）。	P.2～3 図 1
地形，自然災害，植生・土壌， 気候 世界の地形	多くの模式図や写真を使用して，世界のさまざまな自然条件のもとに人々が生活していることを理解させるとともに，火山や地震などの自然災害にも触れ，自然の大切さや恐ろしさ，災害に対する生命の尊さを考察できるようにした（第四号）。	P.8～19 P.174～175
世界の一般図 ユーラシア・アメリカ，東アジア，中国東部，中国拡大図，朝鮮半島，東南・南アジア，インドシナ・マレー半島，南アジア，西・中央アジア，カフカス・クルディスタン，ペルシャ湾周辺，アフリカ・インド洋，西アジア・北アフリカ，アフリカ中・南部，地中海，ヨーロッパ，ヨーロッパ中央部，イタリア・バルカン諸国，イギリス・アイルランド，北ヨーロッパ，ヨーロッパ東部，ユーラシア北部，北アメリカ，北アメリカ中央部，アメリカ合衆国西部，アメリカ合衆国中・東部，中央アメリカ，南アメリカ，南アメリカ中央部 (次ページにつづく)	世界における国土や環境のようすにかかわる情報を一般図に取り上げ，知識や教養の定着と正しい空間認識が身につくようにした（第一号）。	P.20～99 までの一般図部分
	世界の一般図に世界遺産の記号と名称を取り上げ，ほかの地名と区別がつくような記号と色彩とした（第四号）。	P.20～99 までの一般図部分
	世界の一般図に国立公園の範囲を示す記号とその名称（一部）を取り上げた（第四号）。	P.52～53, P78～81, P94～95
	ヨーロッパの歴史や文化を考える上で欠かせない聖堂・教会，宮殿・城の記号を掲載した（第五号）。	P.58～59

太平洋・インド洋, オセアニア オーストラリア東部, 大西洋, 北極・南極	一般図については遺跡・史跡などの名称を赤字にすることでわかりやすく表記した(第五号)。	P.20~99 までの一般図部分
世界の地域主題図 中国主題図, 東南アジア主題図, 南アジア主題図, 西・中央アジア 主題図, アフリカ主題図, ヨーロッパ 主題図, ロシア主題図, 北ア メリカ主題図, 南アメリカ主題 図, オセアニア主題図	自然, 民族, 産業など基本・基礎的な主題図や統計グラフを掲載して, 各地域に対する幅広い知識や教養が身につくようにした(第一号)。	P.20~99 までの主題図部分
	農業や工業など世界の諸地域ごとに産業分布図を掲載し, 人間生活と産業の関わり合いなどを考察できるようにした(第二号)。	P.28~29, 38, 42, 52, 67, 74~75, 84~85, 87, 90~91, 97
日本の一般図 日本全図, 日本の位置, 沖縄本 島・南西諸島, 九州, 四国, 中 国, 近畿, 近畿・中京, 中部, 関東, 関東中央部, 東北, 北海 道・千島列島および各都市図	日本における国土や環境のようすにかかわる情報を一般図に取り上げ, 知識や教養の定着と正しい空間認識が身につくようにした(第一号)。	P.100~129
	日本の一般図に世界遺産の記号と名称を取り上げ, ほかの地名と区別がつくような記号と色彩とした(第四号)。	P.103~129
	日本の一般図に国立公園・国定公園の範囲を示す記号とその名称を取り上げた(第四号)。	P.103~129
	「日本の位置」の図から我が国の国土の現状と周辺諸国との位置関係について理解できるようにした(第五号)。	P.102
	北方領土問題の図から, 領土問題に対する正しい歴史認識と経緯を理解できるようにした(第五号)。	P.129
人口・村落・都市 国際社会 食料問題 国際経済 環境問題	人口・紛争・貿易・環境など今の社会を如実に現したテーマの主題図を取り上げることで, 社会への興味・関心がより一層持てるようにした(第三号)。	P.130~131 P.133 P.135 P.138~139 P.140~141
言語・民族・宗教	文化の例として, 世界や日本の言語や宗教がどのように分布しているかがわかる主題図を掲載した(第五号)。	P.132

農牧林水産業 資源・エネルギー	農業や工業など世界全図または世界の諸地域ごとに産業分布図を掲載し，人間生活と産業の関わり合いなどを考察できるようにした（第二号）。	P.134～137
環境問題	絶滅危惧種をテーマにした図を取り入れ，生物の多様性や命の大切さを学び，それを保護しようする姿勢を育むものとした（第四号）。	P141 図 4
日本主題図	東日本大震災をテーマに，自然災害の恐ろしさと命の尊さを学んだり，ジオパークをテーマにして自然と人々の関わり合いについて関心を引いたりできる図を掲載した（第四号，第五号）。	P.144 図 4 P.145 図 6, 7
	農業や工業など産業に関係する図を掲載し，人間生活と産業の関わり合いなどを考察できるようにした（第二号）。	P.146

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1) 地図を見るための工夫

大州ごとにページタイトルやインデックスの色を統一することで地図が探しやすく，目的のページに容易にたどり着けるような工夫をした。また世界の一般図にはインデックスマップを入れ，地球上のどの部分の地図を見ているのかがすぐに理解できるようにした。

2) 色覚特性のある生徒への配慮

色覚特性のある生徒にも見やすい地図帳にするため，上記で記載した事項のほかに，①市街地は黄色で表現する，②道路を茶色の2本線で表現する，③主題図の階級区分での色に差をつけるなどの工夫をした。

3) 長期の使用にも対応した用紙と製本

高等学校において地図帳は3年間もしくは4年間の継続的な使用が考えられるので，その使用に耐え得る用紙の選択と頑丈な製本方式での造本を心がけた。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-87	高等学校	地理歴史	地図	
発行者の番号・略号	教科書の記号・番号	教科書名		
130 二宮	地図 311	詳解現代地図		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本地図帳は、学習指導要領「地理 A」「地理 B」を参考にして作成するとともに、主題図の項目配列は系統地理学的視点と地誌学的視点の両面から取り上げられるようにした。

1) 一般図について

●世界の一般図に収録した世界遺産、国際空港、日本からの直行便のある空港、高速自動車道、戦跡、遺跡・史跡、ロケット発射場などや、日本の一般図に収録した政令指定都市、中核市、世界遺産、ラムサール条約指定地、名所・名勝、史跡・遺跡、テーマパーク等の名称は、記号・文字囲みや色を用いて示すことによって、一般の地名と一見して区別できるようにした。さらにこれらの地名等を増やすことによって、地理の分野だけでなく、世界史・日本史・現代社会など地理歴史科・公民科の授業においても効果的に利用できるようにした。

●日本では、各地方・地域間の比較がしやすいように同質の地図ごとに縮尺を統一した。したがって地方図は北海道（1：185 万）を除き 1：100 万を基本とし、人口が集中して地図情報が過密な関東中央部と近畿・中京については 1：50 万の拡大図で補った。これら一般図には、学校における授業だけではなく日常生活においても広く利用できるように配慮し、最新の資料を収集して精度を高め、普遍性の高い、辞書的な役割を持たせた。

2) 主題図について

●地形や気候など自然環境は、一般図を見る上でも重要な知識となるため、主題図を一般図よりも前に配置した。また、地理 A では自然災害と防災が設けられていることを考慮し、地形の後に自然災害を学ぶページを設けた。

●人口、農業、資源・エネルギーなど世界主題図のページについては、地理 A と地理 B とともに地球的課題を扱っているため、人口問題や食料問題を包括できるような内容にしたり、環境問題のように独立したページとして設けたりするなどの配慮をした。

●日本の主題図では、自然・産業などさまざまなテーマの主題図を掲載し、多角的に日本をとらえられるようにした。日本の自然分野では、東日本大震災のような災害を学ぶ一方、ジオパークのように地形に親しむ題材も取り入れた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
世界の国々	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	P.2~3	
世界の航空路 等時刻帯・通信	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	P.6~7	
地形	地理 B (2) ア 自然環境	P.8~13	
自然災害	地理 A (2) イ 自然環境と防災	P.14	
植生・土壌	地理 B (2) ア 自然環境	P.15	
気候	地理 B (2) ア 自然環境	P.16~19	
世界の一般図 (ユーラシア・アメリカ～ 北極・南極)	世界の一般図(本図)については、高等学校教科用図書 検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成した。	P.20~99 の 一般図部分	
地域の主題図 中国主題図 東南アジア主題図 南アジア主題図 西アジア主題図 アフリカ主題図 ヨーロッパ主題図 ロシア主題図 アメリカ主題図 南アメリカ主題図 オセアニア主題図	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) ア 自然環境 地理 B (2) イ 資源, 産業 地理 B (2) ウ 人口, 都市・村落 地理 B (2) エ 生活文化, 民族・宗教 地理 B (3) イ 現代世界の諸地域	P.20~99 の 主題図部分	
日本の一般図・都市図 (日本全図～ 北海道)	日本の一般図(本図)と都市図については、高等学校教 科用図書検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成 した。	P.100~129	
人口・村落・都市	地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) ウ 人口, 都市・村落	P.130~131	
言語・民族・宗教	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (2) エ 生活文化, 民族・宗教	P.132	
国際社会	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (2) エ 生活文化, 民族・宗教	P.133	

農牧林水産業・食料問題	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.134~135	
資源・エネルギー	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.136~137	
国際経済	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.138~139	
環境問題	地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) ア 自然環境	P.140~141	
日本主題図	地理 B (3) イ 現代世界の諸地域 地理 B (3) ウ 現代世界と日本	P.142~146	
地図投影法	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	P.147	
統計資料	左に示した統計資料は, 高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.148~159	
地名索引(世界), 地名索引(日本)	左に示した統計資料は, 高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.160~171	
地質年代表	地理 B (2) ア 自然環境	P.172	
地図の歴史	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	P.173	
世界の地形	地理 B (2) ア 自然環境	P.174~175	